



つながろう

CO・OP アクション情報

2013年3月27日

第 27 号

忘れない、情報発信を止めない、つながりを切らない

みやぎ生協「東日本大震災を忘れないつどい」開催



全国の生協からの支援に「支援を受ける人、支援をする人の立場を超えて、仲間として、隣人としてのつながりが深まったと思っています」と話す齋藤理事長。

2013年3月11日、みやぎ生協文化会館 withで「東日本大震災を忘れないつどい」が開かれました。震災で亡くなったみやぎ生協職員のご遺族をはじめ、みやぎ生協役職員、全国27生協57人の役職員を含む約250人が集まり、犠牲者を追悼するとともに、あらためて復興に立ち向かっていくことを誓い合いました。



2013年3月5日、みやぎ生協文化会館 withの1階には「東日本大震災学習・資料室」がオープン。震災当初から現在までの様子が写真、映像を中心に展示されている。誰もが自由に訪れることができる。

つどいは、震災で亡くなった16人のみやぎ生協職員をはじめ、全国の犠牲者約2万人を悼む黙とうから始まりました。冒頭あいさつで、みやぎ生協の齋藤昭子理事長は、被災者の悲しみに

寄り添うように静かに話し始めます。避難生活が長引く中で関連死、癒えることのない喪失の悲しみ。そうした中でこの2年間、復旧復興にあたり全国の生協や関連団体からの支援がいかに大きな力になったか……。そして、「忘れない、情報発信を止めない、つながりを切らない。私たちは活動と事業を通じて、くらしと地域産業を支え続けます」と力強く締めくくりました。

続いて、志津川かき養殖部会の遠藤勝彦部会長からは、「生協支援を得て、県内産かきのトップを切って再開できました」と感謝の意が表われ、また、石巻ボランティアセンター長の和崎きよ子

さんは、現在の被災地の現状を話しました。

被災地を支える側からコープネット事業連合の小林新治執行役員とコープこうべの竹中久人執行役員が、自身の経験と思いを込めてあいさつをし、日本生協連の芳賀唯史専務理事が今後の復興支援の内容について報告しました。

最後に、みやぎ生協の宮本弘専務理事が、全国からの励ましへの感謝と、「心のケア」「事業を通じた支援」「食を中心とした産業の復興」の3つを柱に取り組んでいくことを述べて閉会しました。

震災から3年目を迎える今、それぞれが被災地に思いをはせ、復興への決意を新たにしています。